



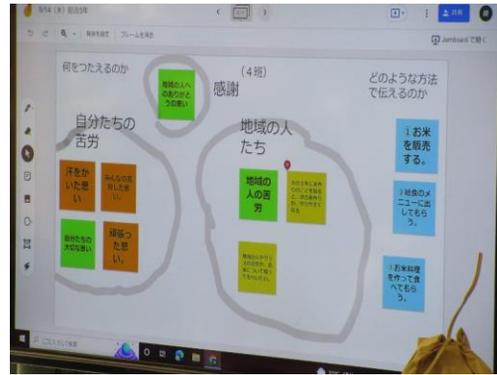
菊池学園公開授業 伊野南小学校 校内研修

令和4年9月14日(水),伊野南小学校で公開授業と学校版寺子屋を行いました。

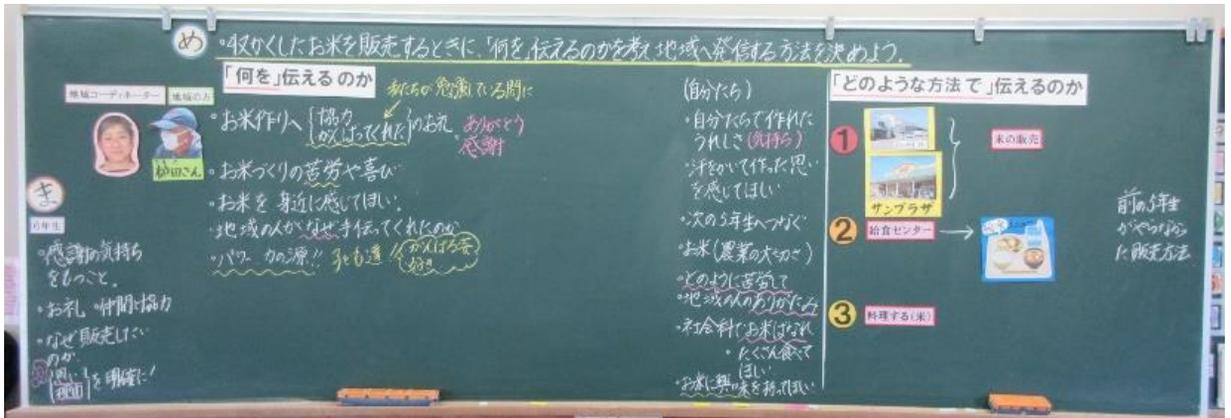
第5学年総合的な学習の授業でした。この単元では、米作りを通して地域の方の支援に気づき、感謝の気持ちを持って自分たちの生活に生かすことを目標としていました。本時は、収穫したお米を地域へ届ける時に「何を」伝えたらよいかを考える授業でした。



(グループで共有)



(ICTの活用)



授業者より

- 子どもたちは、緊張していて、盛り上がりなかった。
- 子どもたちは、どういうことを伝えなければならないかストンとおちていない様子だったので、発問を工夫したい。
- 「地域の人を紹介すれば、伝えたいことが伝わる」というところを深めていきたい。



研究協議より

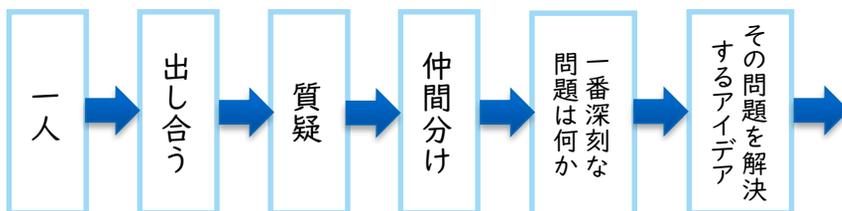
- タブレットで考えを共有・整理したことがよかった。
- 他のグループの意見をジャムボードで共有できるのは効果的であるが、さらに、質問や意見をjする時間があるといいのではないか。
- 発表の時に、積極的に発表する姿が見られた。
- 整理するときに、他のグループを見に行ったり、聞きに行ったりする時間をとってみてはどうか。
- いい声で発表できている子がいて、よかった。
- 発表の時は、タブレットを閉じるなど、相手を意識して聞く工夫が必要ではないか。
- 発表の機会のゆずり合いが見られてよかった。
- 友達同士で指名する場面があった。
- 「売る時の声かけはどうする?」という発問が「何を」伝えたいかにつながっていくのではないか。
- 単元の最初になぜ田植えをするのかを考えさせておくことで、今回の流れにつながってくる。
- 伝えたいことを最初に出させて、ジグソー法で考えさせるのはどうか。
- 「自分達で放送原稿を考えよう」という発問だったら、盛り上がるのではないだろうか。
- ジャムボードでお互いの意見を共有することができており、タブレットの活用が進んでいる。
- 発表に対して質問する機会があるとよかったのではないか。



菊池先生より

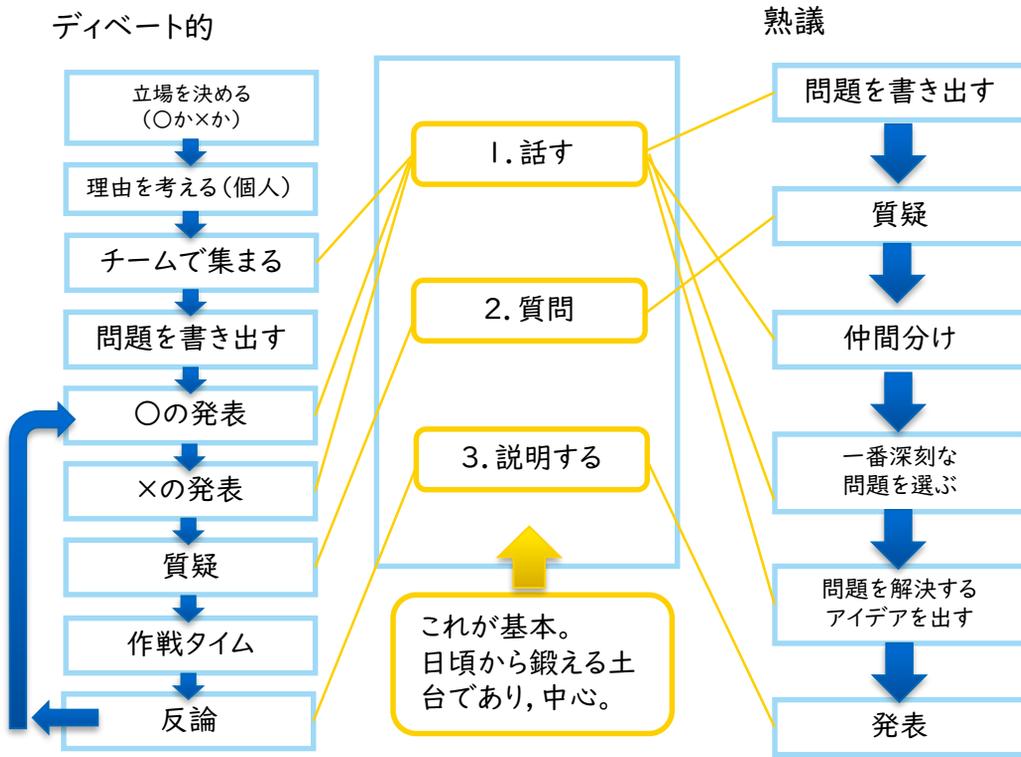
- 正解と不正解が決まっている問いではなく、正解のない問いについて考える授業をしましょう。子どもの思考に寄り添いましょう。

※子どもの思考に寄り添う学習過程



- 子ども同士が活発に話し合いするために、価値語を活用しましょう。例えば、質問や感想をたくさん言わせたいときには、5分の1黒板に「あっ!思いついた」「あっ!思い出した」「なんで?」と書くことで、質問をしやすくなります。

話し合いの二大巨塔(ディベート的・熟議)の共通点



「成長ノート・価値語・ほめ言葉のシャワー」と授業のかかわり

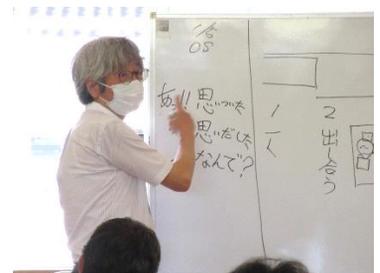
○成長ノート

成長ノートは日記でも、感想文でもありません。成長にかかわるテーマを教師が与えて書かせるものです。授業の振り返りとして書く成長ノートのテーマはどんなものがよいでしょう？
例えば…

- 「話し合いに大切なことを3つ書きましょう」
- 「Aさんの発表の仕方について、あなたの考えを書きましょう」

○価値語

価値語は「価値語モデル」が全てではありません。5分の1黒板に書く価値語は、自分の教育観、つまり「こんな子どもや集団を育てたい」「こんな授業をしたい」というものが表れるはずで。対話型の授業に向かうために、価値語を活用しましょう。



(目指す学びの姿を5分の1黒板に書く)

○ほめ言葉のシャワー

授業中、「誰の、何を、どうほめるか」を考えていますか? 「この活動で、こんな姿をほめよう」を意識して授業に臨みましょう。ほめる時は「先生はこう思ったよ」とアイメッセージで伝えるとよいです。また、周りに子に響くようにほめることが大切です。どういうところがよいかを他の子にも伝えることで、教室全体が学びに向かうようになっていきます。

参加者の感想より(抜粋)

学校としての推進や、学級・授業づくりについて

- 対話の部分を今一度確認して全体で取り組んでいかななくてはいけないなと思いました。
- 伊野南小の取組や手立てが、授業の中では良く分からなかった。
- みんなが真面目にコツコツと丁寧に取り組んできているのが、学級から伝わった
- 互いを認め合い、待ったり、譲り合ったりできる関係があつてこそ、対話が成り立つと感じました。
- 米作りについて時間をかけて探究的に学んだことが地域や郷土愛につながると感じました。
- 総合で取り組んだ学習の掲示物から、丁寧な取り組みがされてるのだな、と感じました。

学校版寺子屋について

- 生徒との向き合いかたを改めて考えた。
- 授業者の意図や思いをしっかりと持って、授業を仕組むことが大切だと感じた。
- ディベートについて演習を通して振り返ることができ、改めてやってみたいなと思いました。
- いの町が目指すべき授業のイメージが持てた。
- 自分たちで何回もグループ討議をするより菊池先生の話がたくさん聞きたかった。対話の大切さを改めてわかった。
- 対話を活性化させるために、分裂する問いを取り入れること。成長ノートは半歩前に進ませるチャンスであること。ほめ言葉はアイメッセージで、周りの子にも響くように伝えること。
- その時その時の子どもの良さを引き出したり、周りへ促したりする価値ある言葉をもっと使っていかななくてはいけないと改めて感じました。

参考になった点

- 子ども同士をつなげることを意識して授業をしないといけないな、と改めて感じた。
- 授業を見せていただくことで、自分だったら・・・と考えながら見させていただくことができ学びとなりました。(例えば、褒めどころ、ICT活用の仕方についての改善点や、学習の流れが分かりやすい壁面について)
- 子ども同士がつながり合う学級づくりの大切さが良く分かった。
- 成長ノートを授業後に使うこと。
- 学級経営。ほめ言葉のシャワー。
- 黒板の有効的な活用。対話の仕組み方。

研究所より

1学期から取り組んできた、総合的な学習の時間の授業を見せていただきました。担任の先生が一生懸命、丁寧に指導されてきた足跡がよく分かりました。学校版寺子屋では、学級づくり3つの視点(成長ノート、価値語、ほめ言葉のシャワー)が授業にどう関わっているかをあらためて考える事ができました。学級づくりと授業づくり、両方の視点から学びに向かう授業を創っていきましょう。

いの町教育研究所 TEL893-1922(教育委員会事務局内) TEL893-0255(資料センター)